

**編集後記：**先日、宿舎の清掃作業があった。これは、毎月一回行われるもので、草取りがおもである。冬の間は、雑草も生えないので休みであったが、春になって、再開となった。この作業に一家の主人が出るか、それとも主婦が出るかが、些細ではあるが無視できない問題である。宿舎内の様子を見てみると、棟によっておおよそ決まるようである。つい先日まで、うちの棟にいた時は御主人が出ていたのに、別の棟に引っ越した途端に、奥さんが出るようになった例などは興味深い。それは、従来から、奥さん方が大多数出る棟である。我が家は男性が多数出る棟にある。それにしても、たいした植込みもないのに、つい最近までほとんど緑も見当たらなかった宿舎内が、あつというまに緑でいっぱいになっている。春の訪れの速さとそのエネルギーに改めて、目を見張った。

4月になり、また新たな年度が始まった。この時期は、人事異動で新たなメンバーが加わり、職場の雰囲気も一新（とまではいかなくとも）する。天気編集委員も、異動に伴って委員の交替や、担当の交替などが行われる。天気の編集は約25名で行っているが、それぞれが解説、シンポジウムなどどれかの担当をする。私は、この2年ほど事務局の月当番を担当してきている。これは、著者原稿から印刷されたものを校正して天気を最終的な形まで仕上げる作業である。編集書記と月当番が、それぞれ2回ずつ間違いがないかチェックする。しかし、常に100%の原稿を作り上げることは、

なかなか難しい。自分が担当した月の天気が発行されたあとの1、2週間は間違いが見付からないか、気が気ではない。十分に時間をかけて繰り返し読み返すと間違いを限りなく0に近づけることができるはずであるが、物理的にかけられる時間と労力も限度があり、また、人間のやることであるから間違いを0にするのは不可能なのだと思いきや、心の平安を得ている。ただ、少なくとも、文章の一部が脱落するとか、図と文章の対応がずれるなどの大きな間違いだけは100%無いように心掛けている。もし、間違いが見付かったら、訂正の記事を載せることになっていますので、天気編集委員会までお知らせ下さい。

(中村 誠臣)

すでにお気づきの方も多いかと存じますが、先日、皆様方のお手元にお届け致しました「天気」4月号の表紙に印刷上のミスがあります。表紙右上部の巻数と号数を示す数字が抜けております。このような印刷ミスが生じたことについてお詫び致します。

印刷ミスの原因は、印刷所においてカラー部分と黒色の文字部分を分けて最終的な印刷用フィルムを作成する工程で手違いが生じたためです。今後このような作業ミスが生じないように、印刷所に対して厳しく注意するとともに、再発防止策を検討するよう指示致しました。

(編集委員長)